

地域とともにある文教エリアのあり方学習会 アンケート集約

●令和2年11月23日（月・祝）10:00～12:00 村民会館2階会議室

●講師：国立教育政策研究所文教施設研究センター 総括研究官 早田 清宏 氏
有限会社設計工房顕塾 代表取締役 柳川 奈奈 氏

●アンケートより

- ・とても奥の深い話が聞けました。学校作りは村作り、みんなで頑張りたい！！人口を増やすためにはゆずも大事だが仕事がほしいと思います。
- ・学校と地域が一体となる建物について詳しく教えて頂き深く考えるヒントをたくさんいただきました。教科センター方式は大賛成です。
- ・講義はワクワクしました。北川の学校も子ども達が積極的になれるような空間を入れて作ってあげたい。あれもこれもダメではなく、環境を整えて色々体験させてあげませんか。どうすれば危なくできるのかを大人と子どもと一緒に考えることが大切なことですね。
- ・学校作りの事例は素晴らしいものでした。今後北川村においても地域の人たちと意見を出し合いながら考えていけばよいと思います。
- ・保小中一貫教育に向けた建築に向けて動き出した。中身（児童）は大丈夫か心配です。人数の確保をいかに果たすか行政の責任は重い。
- ・興味深く聞くことができました。発想を変えて将来的な学校作り村作りについて考えることができました。
- ・村の思いを反映できる設計会社の選択がとても大事だと思いました。
- ・自分の中でもやもやしていたものがすっきりしました。地域と一体になった素敵な学校ができるとうれいですね。
- ・地域作りが大事というワードがとても響きました。学校作り＝子どもが居る家庭の問題ということではなく、住民も関わって作っていけると思うと関心も増えていき、一部の人だけではなく関わる人数も変わってくるかなと期待しています。
- ・学校が子ども達の創造性と課題解決能力を育む場所になるような場所になってくれる、そんな学び舎が造られることを期待しています。子どもが巣立ってから、どの世代も集える村の拠点、シンボルになると素敵だと思いました。どの世代も誇りをもって暮らしている村になりますように。
- ・一貫教育とそのための望ましい空間がイメージできる良い学習会でした。北川村では保小中がつながる他にはない特性を活かしたいと思いました。
- ・学校作りは村作りということを実感しました。事例をいくつか見せて頂いて北川村らしい学校を創ることができればいいなと思いました。そのためには、今日のような場やたくさんの方が話し合いを深める場が大切だなと思います。特に子ども達の意見もしっかり取り入れていくことも大切だなと思いました。学校が村のコミュニティの中心になっていければと思います。
- ・学校作りを通じて人々がエネルギーをぶつけあう、そして形を創る、それを使いながら又環境が変わり、将来をどのように使っていくかと話し合う。永く人々の交流の場、つながりの場、そのコアの場所となることが大事だと感じました。
- ・今までの考え方をくつがえされるようなワクワクした時間を過ごすことができました。課題はたくさんありますが、みんなでこうして前向きに話し合うことが大切だと感じました。グループ協議ではこういう新しい施設を建てる費用の問題になり、森林を利用できたら、火力発電、昔の森林鉄道の時代の材料が眠っていることに気づきました。ここでは書き切れないいろんな気づきがありました。